

[成果情報名] 2011年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約] 山形県における2011年のコイヘルペスウイルス病（以下KHV病）の発生件数は0件であり、これは2004年に本県においてKHV病が確認されてから初めてであった。また、2011年の検査件数は4件で、発生件数と同様にこれまでで最も少なかった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 政

[キーワード] コイ、コイヘルペスウイルス（KHV）病、発生状況

[背景・ねらい]

KHV病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてKHV病が確認されてから本年度で8年目となった
2. 2011年のKHV病の発生件数は0件であった。これまでの発生件数は2004年に69件と最多であったが、2005年は16件に減少し以降10件程度で推移しているが、0件であったのは2011年が初めてであった（図1）。
3. KHV病の検査はコイへい死の通報や相談に対応して実施するが、2011年のKHV病の検査件数は4件（9月3件、10月1件）であった。これまでの検査件数は、発生件数と同様に2005年以降は減少し30件以下で推移しているが、2011年はこれまでで最も少なかった（図1）。
4. 全国のKHV病の発生件数に関しては、2004年（910件）をピークに減少傾向で2008年には89件まで減少しており（水産庁ホームページ）、本県と同様の傾向にある。

[成果の活用面・留意点]

1. 2011年にKHV病の発生件数が0件となり検査件数もこれまでで最も少なかった要因として仮定するものとして、1) 感染耐過魚の増加 2) コイのへい死が通報される割合の低下などが挙げられるが、現在それらに関するデータは得られていない。今後とも、経年的な発生状況をモニタリングするとともに、全国的な発生動向や研究情報に注意する必要がある。
2. 依然として感染源となりうる感染耐過魚は県内に広く存在すると推定されており、発症や斃死したコイは速やかに埋却あるいは焼却処分をするなど、決して川や池に捨てることのないよう、現在県で実施している防疫対策を今後とも継続するとともに、コイへい死情報の通報協力について広報活動や呼びかけを引き続き実施する必要がある。

[具体的なデータ]

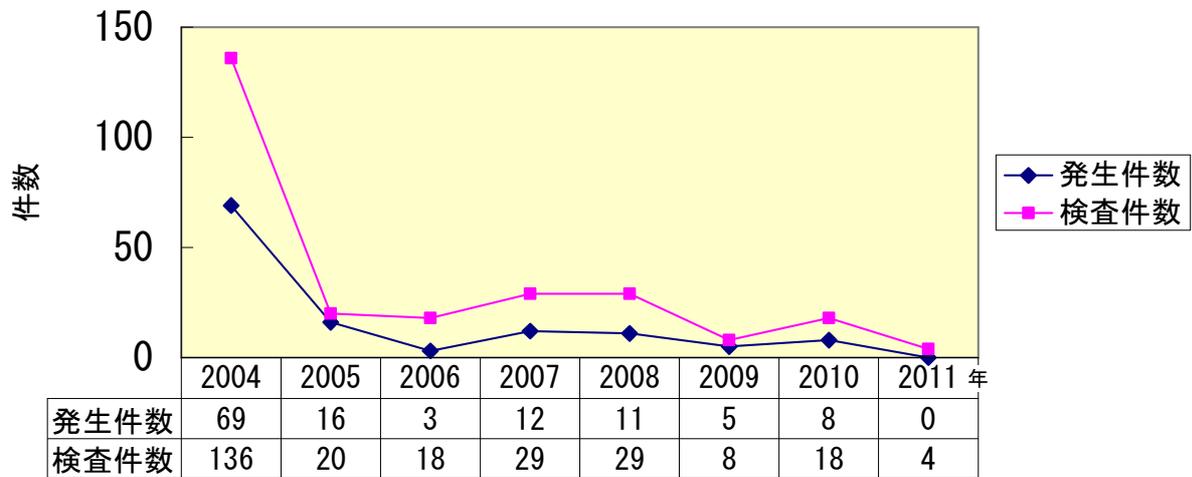


図1 山形県におけるKHV病発生件数及び検査件数の推移

[その他]

研究課題名：KHVまん延防止対策事業

予算区分：国庫

研究期間：平成23年度

研究担当者：平野 央、大川恵子、粕谷和寿

発表論文等：なし